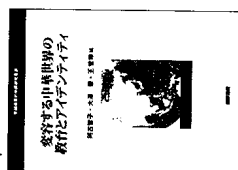


# 複数の「チャイニーズネス」を生み出す 公民教育の変遷と現在

砂山 幸雄

阿古智子・大澤肇・王雪萍編  
変容する中華世界の  
教育とアイデンティティA5判 312頁  
国際書院  
[本体4,800円+税]

近現代の東アジアでは、しばしば小中学校・高校の教科書あるいは教育内容が外交問題や社会的緊張の火種となってきた。それは「歴史認識」という限定された領域の問題にとどまらず、教育を通じていかなる「国民」を形成していくかという深刻な政治的含意をはらむ問題の表出でもあった。このことは今日の台湾・香港の状況を一瞥しても明らかであろう。本書はまさにこのようなアクチュアルな問題に挑んだ意欲的な研究プロジェクト、「中国」をめぐるアイデンティティとナショナリズム」の成果の一部である。

プロジェクトの代表者であり、本書の編者の一人でもある阿古智子によれば、非民主主義国家は市民教育の研究対象にはできないという考え方もある中で、同プロジェクトでは、グローバル化の時代に各国間で市民教育に関する多くの

共通課題があるとの立場から、「中国と中国に関わる人々が、国家を含め、様々な共同体において自らの帰属をどのように意識しているか」をとらえようとした。そのために、中国・台湾・香港の多様性を反映した研究者グループが組織されたことが同プロジェクトの特色の一つであり、本書でもその成果は十分反映されている。本書は、阿古による総論的論考を含む第一部「歴史と現在のなかの中国教育」の六つの章と、第二部「周辺諸国・諸地域と「中国」の相互影響：教育・アイデンティティ・ナショナリズム」の四つの章から構成されるが、それぞれの章はほぼ独立した論文とみなすことができる。

第一部では、公民を中心とする教科教育に焦点を絞った三編の論考が収められている。そのうち大澤肇論文は、一九二〇年代から共和国初期までの中国の小学校における公

民教育の系譜を扱っている。公民科は米国の教育制度の影響を受けた一九二三年の「壬戌学制」において修身科に代わって初めて導入された。大澤論文は、それ以降の国家主義派からの批判に始まる公民教育のやや複雑な転変を辿り、各時期の代表的な教科書の内容を〈自由・秩序・公民〉〈対外認識・ナショナリズム〉〈身体・衛生〉という社会形成に関わる三つの概念に即して整理した。そして、導入当初、「市民」形成をめざして語られ始めた「近代的価値観」が、南京国民政府の成立以降は、「市民」の形成というよりは、政権のイデオロギーを宣揚する方向に変容し、公民教育が「中国化」してしまつたと結論づけている。

続く王雪萍論文は、改革開放後の小学校教育改革の目玉として、従来の地理・歴史を統合する形で新設された「社会科」を取り上げている。社会科は生活に必要な身近な常識や法律知識の習得と合わせて「責任感の強い社会人を育成する」ことをめざし、とくに、「教学大綱初審稿」（一九八八年）では「中華を振興する気持ちを持たせる」などと並んで「初歩的な民主的意識を持たせる」ことが要求された。著者はこれを当時の政治改革の理念と歩調を合わせたものであったとみる。ところが、天安門事件後に「初審稿」は見直しを迫られ、一九九二年の「教学大綱」では、この箇所は消えて、「集団

主義の観念と社会へのサービス精神を初歩的に育成する」という内容が追加された。著者は、社会科の新設はもともと「中国のグローバル化に向けて行われた教育改革」だったが、結局この改革は挫折し、「歴史重視、共産主義思想教育重視の学校教育」へと「逆行」したと断じている。

大澤・王両論文に従えば、「近代的価値観」を育むべき公民教育の理念は、民国期にも改革開放期にも「愛国主義教育」「国情教育」によって捻じ曲げられたということになる。ところが、改革開放期の中学校・高校の国語・歴史・政治の三教科の教科書を取り上げて「中国」自画像の変容」を考察した武小燕論文は、これとは異なる見解を示している。武論文は、各教科の教科書の内容を一〇年ごとの時期区分により定量的に分析し、それぞれの時期で生徒に求める精神的要求の傾向をとらえようとした。たとえば、国語教科書では、八〇年代には「社会主義者の気質」が求められたが、九〇年代には「個人や科学を重んじる近代社会の側面」が強まり、二〇〇〇年代には「文学的養育とヒューマンイズムの精神」が求められ、「国語教育の政治性がいつそう薄れて文化中国の自画像が前面に出されるようになった」。歴史・政治についても同様の傾向が見られるので、改革開放期の教育の「変化の方向性は一時を除いて一定して」おり、「脱社会主義イデ



されるものではなく、むしろ、政府が民族主義的レトリックを政策実現のためのツールとして利用しているという点であろう。著者は「日本と中国にとって尖閣諸島の紛争は、愛国心とナショナル・アイデンティティの強化のための触媒」になつており、「日本と中国にとって非常に有用であり、存在しなかつたとしても、遅かれ早かれつくりだされたであろう」と述べている。

本書の中核は、中国、台湾、香港における公民教育を中心として、ナショナル・アイデンティティの形成をめぐる教育政策の展開を扱った諸章であろう。これらを比較して読めば、融合することが困難な複数の「政治的、民族的、文化的チャイニーズネス」(グイックアズ)育成の意図が交錯、衝突し、そこから「本土性」にもとづく新たなアイデンティティが形成されつつある——そのような全体像も思い描くことができそうだ。本書は今後この分野の研究を進展させるための貴重な里程標となることは間違いない。

しかし、それだけに今後に残された課題も大きいと言わねばならない。とくに二点だけ挙げておきたい。その一つは、集団的アイデンティティの問題を扱うには、その担い手の側の検討は不可欠であろうが、大澤肇が率直に認めているように、本書は全体として教科書を含む教育制度についての分析

を主としており、教育の受け手の側の視点からの分析が不足している。今日、中国でこうしたテーマの現地調査を行うことは難しいという事情はよくわかる。その代替措置として、周防正行監督の映画「それでもボクはやっていない」を中国、台湾、香港、日本の大学生に見せて、その反応を分析するという奇抜な方法を採用して、その成果を示すシンポジウムも開催された。その内容をまとめた本が近く刊行されると聞くので、それには大いに期待したい。ただ、それでもプロジェクトの当初の目的を達成するには、現地調査以外のさらなるアプローチを案出していくことが必要であろう。

この点と関連するが、第二に、本書では一部を除き概してナショナリズムやナショナル・アイデンティティ自体の分析が手薄な印象を免れない。この分野は従来、歴史学、政治学、思想史、文学などの領域で言説分析を中心に研究が行われてきた。しかし、教育学領域の研究と積極的なコラボレーションが図られてきたとは言い難い。本書は教育学分野からこの問題に迫ったものであるが、読み進めるにつれ、このテーマをさらに掘り下げていくには、ナショナリズムとは何かをめぐりより学際的な取り組みが欠かせないのではないかという感を深くした。陣容を整え、次のステージに研究を進めてもらいたいと思う。  
(すなやま・ゆきお 愛知大学)

### Book

#### ■ 太平天国財政経済資料匯編 (全二冊)

本書は、太平天国の財政経済関連の資料を全二〇章に分け整理、集録。太平天国の理想社会と基本政策、軍需の出所と財政収入、徴糧制度、財政経済の管理機構、租税労役、戸籍制度と人口、財政支出、

農業、工業、商業、貿易、金融と貨幣などに関する内容が含まれている。

〔趙德馨編 上海古籍出版社〕

一七、九一〇円

#### ■ 近思錄集解

本書は、《近思錄》の注解本として、宋理宗淳祐八年に編纂された《近思錄集解》の点校本。台北故宫所蔵の元刊本

を底本として点校し、明嘉靖年間買世祥刻本《近思錄》(白文)と《近思錄集解》歴代刊鈔本の序跋を附す。

〔南禾〕葉采集解、程水龍点校

中華書局 三三三六〇円

#### ■ 翼駟神編

本書は、清代道光年間の文言短篇小説集《翼駟神編》の点校本。《聊齋志異》や《閱微草堂筆記》の流れを汲んだこの志怪小説集は、主に民間怪異譚に由来する約五〇〇話の短篇を収録。中国の幽冥文化、民間信仰の研究において貴重な文献。

〔清〕湯用中著、〔清〕徐廷華評、饒保群点校 文物出版社 三六〇〇円

#### ■ 黄帝内経詞語通換

本書は、上海中医薬大学教授の段逸山氏が《黄帝内経》中の単語やフレーズを検索するために編纂した全篇《素問》と《靈樞》を含む通用索引。《黄帝内経》全篇の原文を収録し、全ての語句に、句序、番号を振り、その句序で示された使用箇所と総使用回数を索引に記す。

〔上海辞書出版社 一一、〇〇〇円〕

## BEST 10 September

### CHINESE

- 1 知日43一起看大河劇吧! … 茶島龍主編/中信出版社
- 2 人民的名義 … 周梅森/北京十月文芸出版社
- 3 解憂雜貨店 … (日)東野圭吾/李盈春訳/南海出版公司
- 4 2016中国重要考古發現(漢英対照) 国家文物局主編/文物出版社
- 5 我在日語、讀文豪著/黃耀遠訳/聯合文學出版社股份有限公司
- 6 秋刀魚16 港味日本 … 陳曙華主編/黑潮文化有限公司
- 7 混世魔王毛沢東——劉曉波文集第四卷 … 劉曉波著/余傑主編/主流出版社
- 8 最後の「天朝」——毛沢東、金日成と中朝関係(1945—1976) 上下 … 沈志華/中大大学出版社
- 9 宋本諸子集成(附選書83) 續井正一郎/京都大学学術出版会
- 10 中外交通古地図集 (附註釋) 國家圖書館出版

### JAPANESE

- 1 魏晉南北朝史のいま(アジア遊学213) 窪添慶文編/勉誠出版
- 2 京都学派 朝野伝(伴倫選書83) 續井正一郎/京都大学学術出版会
- 3 文化大革命 (造反有理)の現代的地平 … 明治大学現代中国研究所、石井知章、鈴木賢編/白水社
- 4 ほんとうの中国の話をしよう (河出文庫) … 余華/飯塚容訳/河出書房新社
- 5 香港行ったらこれ食べよう! 清水真理子/誠文堂新光社
- 6 芥川竜之介紹介文集(岩波文庫) … 山田俊治編/岩波書店
- 7 G・E・モリソンと近代東アジア 東洋学の形成と東洋文庫の蔵書 … 公益財団法人東洋文庫監修/岡本隆司編/勉誠出版
- 8 台湾人の歌舞伎町——新宿、もうひとつの戦後史 … 稲葉佳子、青池憲司/紀伊國屋書店
- 9 中国「絶望」家族 「一人っ子政策」は中国をどう変えたか … メイ・フォン/小合まさ代訳/草思社
- 10 中国では書けない中国の話 余華/飯塚容訳/河出書房新社

東方書店本店店頭調べ